

私たちの民俗資料 【No.2】

これまでに市民の方からご寄贈いただいた民俗資料を一部ですが少しずつ紹介してまいります。

【卓袱台（ちゃぶだい）】



畳の多い昔の家では、食事の時などに使用した。

使わないときは脚を折りたたんでしまっておく。

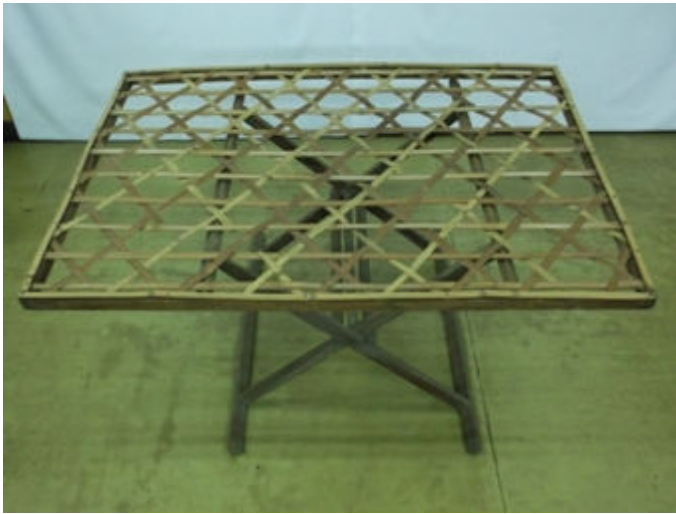
【種まき器】



ブリキ製の円柱の筒の中に畑に蒔く作物の種をいれて、上の取っ手を振って種を蒔く。

蒔き口は隙間を調整することができ、リズムカルに振ることで均一に種が蒔けた。

【エビラ(上)とエビラ台(下)】



座間でも昔は養蚕が大変盛んで、たいていの家では年間2～3回、蚕を飼い、マユを生産した。

エビラは、蚕に餌の桑を給餌(きゅうじ)するとき使用するもので、各家で竹などを使用して作ることもあった。

【まぶしおり機】



蚕が上族(じょうぞく マユになるとき)に入るワラのまぶしをおる道具。

【こたつやぐら】



掘りごたつの中で使用する。
頑丈な木の囲いの中に炭を入れた小さな火鉢などをいれて、こたつを暖める。

【粉桶（こなおけ）】



小麦粉などを貯蔵する桶

【上皿手動棹秤（うわざらしゅどうさおばかり）】



たいていの商店で、少し重いものを量り売りするときに使用された。デジタル計測のはかりが増えた今ではあまり見かけないが、金物屋さんなどで、時々見かけることもある。

【棹秤（さおばかり）】



かなり重たいものをはかるときに使う。

右端におもり、左端のかぎにはかるものをかけて持ち上げ、棹が水平になったときが、はかるものの重さとなる。

したがって、目盛りは貫目（約4kg）などの大きな単位の刻みとなっている。